



國乃花

雨辰



5  
1925







立秋



帝人乃言唱秋のありぬりぬ 雲章  
 立秋や所るあひくはるの身寄 洞水  
 立秋は先多るあひくはる 雲山  
 立秋や東よまきやる 山下 風 一元  
 立秋乃風暮もよまきやる 一  
 蘇劉

前次



まの秋よ我惟子れらるゝらり 乙列母  
秋風の能因碎ぬ物こりぬ 下圓

麻玉

井戸汲りてくまのよちとく 水友  
秋あらしきまより捨ぬ圓りぬ か列  
乃まきやゆいん秋の捨あはる か列

一葉

志らばと物懐れ種るの 素雲  
死しと物衣裏よこ持と 風心  
落葉の か列 一葉 か列  
桐の葉よ乳母おろる 日 後

萩



蕪乃夢新児とくくひたり 去夏

あふま友知まこ 蕪乃了也 新に

調

白くもやほおひつるのふ灯籠 字白

せりーもや風鈴まきけぬ秋の聲 言求

七夕

石のわし木い朽木し星の橋 如泉

物うて星よやこや夷り妻 ち飯 一泰然

まきくやこよひ見付し銀河 観水

こ河おちる流の視よ濁りたり 鳥水

枝ぶらう音よ橋の音 流水

七夕のや橋の梢乃を新に ち飯 みるま



早待く女轉多引ゆり水 結去  
 早合よふの月の情水 白  
 船けふ一板の雲よあふ始 空保  
 早案よ鳥遊一 始り水 水保  
 為原の海あり秋乃七白水 未達  
 見よゆらん廣深早の多う安 言水

編妻

早りよつてひた 祝情り水 柳之  
 早りよや寝安とらひの 糸流 泉流  
 編妻乃情よけり一 産取水 去取  
 松の枝よ編妻を重れ重なり水 乙引 去取

魂奈

付 持待  
 打巻  
 瓦火

前秋

四



年塚より伝へられたりといふの病 可休  
 梅結乃果よあやましや病房 志多  
 正月の物とるまのゆへにの物 毛引 正廣  
 ちの灯籠をとりて見るとる物 全  
 欲まよふ虫の如きのひんがし 扇計  
 あられよも魂察とる 日 花女 日 氏也

灯籠乃より墓へ入る カ引 一矢  
 後入るとりて枯木の灯籠 光 光云  
 飛魂 ヒトダニ の消て指の灯籠 家 家水

醒

向うの夢うとうと 休見 醒 氏也  
 袖ひけい妹 貞志氏 醒 燕軒



伯父ハクフ 躰タテの東ヒガシの辨ハジメの海ウミのあはせの 空ソラ 露つゆ  
あはれあはれ 留とどりてあはれ 躰タテの 言こと水みづ

相撲

松マツ 絲イトらとと 女メのあはれ 躰タテの 女メ 琴コト

女三井寺詣

三井寺ミヰイデラよりりりと 拾ひろふ月つき 彩いろ 露つゆ

蕎麦

炎ヒの夕ゆふ 霞かすみ一ひと呼よぶをのそと 不ふ玉たま お引の留

也やのの炎ヒ 揚たかの志こころ 雲くものあはれ 不ふ玉たま お引

城しろ 糸いとと 匠たく人ひと 水みづ や 也やのの炎ヒ 言こと水みづ

線風

芦アシの屋やの 煙けむりよりれぬ 庭にわらまの 流なが水みづ お引



芭蕉

兼あしらの指子よまじりて  
 一せ成やまてま真釣よま  
 法持やとせ成と珠敷よ  
 風風の如きとせ成よ  
 獨よまじりてせ成と珠敷よ  
 流氷

存世 百餘

鬼灯草

一くち  
 一くち  
 近元

秋草

迷ふれ母よまじりて  
 せの如く一牛の如く  
 或は時よまじりて  
 文俤  
 馬求  
 尚綱



里母ふらりのくまの藤水 底元  
 風の藤水く半の藤水  
藤水 如竹  
 藤水く半の藤水  
藤水 言途  
 藤水く半の藤水  
藤水 友直  
 藤水く半の藤水  
藤水 一鴻  
 秋の好也都見ぬと歌の友の足  
如竹 流水

藤水く半の藤水  
藤水 松白  
 藤水く半の藤水  
藤水 扇沙  
 女師の藤水く半の藤水  
藤水 扇沙  
 下戸の藤水く半の藤水  
藤水 幽窓  
 我が藤水く半の藤水  
藤水 雲白

松



ふまの物もまじりて、風喬

物もよみ流るの化ある命も 去澄

撰よ果して法條の一筋也 出書

物への流る吸物の中ら 日 恩懐

物もいふ文字まゝいふが 何日 玉志

物もよみとていふ 何日 御書

吾もよみ物もよみ 何日 雲山

撰よ物もよみ 何日 一語

物もよみ 何日 氷流

撰よ物もよみ 何日 親切

無事や物もよみ 何日 彩霧

竹垣や物もよみ 何日 匹如身



船具乃おやめり誰かみまらむ垣 船角波 口〇水

松よ横織窓此女うらね 保利

蘭

風乃白の蘭よ尻もる夕水 多引 初皮

蘭咲くも真夢のそく 隣り水 心願 阿童

蘭折して猶志づる女ふくの如 空祿

虫

猫餅り歩も困る〜 藤の露 雀ん 三ヶ

松虫乃文る柔織の洞うらね 女草

虫れよゆけく鼻けく地花水 徳引 菊玉

松虫よはくとりゆく好乃水 日野 秋風

猫ら虫の登よ同ゆる電馬水 修丹 人角



九月星の白

鳴使のまゝ水伝と影をふ 傳引 御前

鏡乃使於よ源縁の哥の如 傳丹 百齡

竹まよ雲の影と使夕の如 志家子

明歌も清のまゝ鳴よま 傳丹 百齡

こらへは言ふあゝあゝの如 傳丹 樞宮

多縁も松使まゝ川名 如心

軒中義よ冬結の如も 法隆寺 貞慈

文と海と鏡子と雲の如 如水

勢

勢青よやせ牛うへ 海中道心 一鷗

勢



うらら棚鳥よけり物うけ  
如所

まき岩

巫乃くさ靡のまき岩の如  
周也  
物毎よけりまき岩の  
貞心

麻付麻野

麻野くさまき岩の如  
まき岩

川の急乃くさまき岩の如  
正廣

急乃急乃門田乃急乃  
常征

懸

百舌鳴く浮来くさ  
彩雲

怪老百舌よ命よ  
可心

月



里あまの月を曇りて横をみ 白雲 不學

とらじ月を抱きしるる始 春 未節

月をけしるるさかしの小蟹 高 去夏

月あまの月を抱きしるる岸 龍の珠 空章

あまの月を抱きしるる 去夏

くり橋よ狐猿とての月をみ 泉流

月の浦樽の影をみ 下光

名月

とらじ月を抱きしるる 白雲 不學

とらじ月を抱きしるる 春 未節

とらじ月を抱きしるる 高 去夏

とらじ月を抱きしるる 龍の珠 空章



名月や小僧裸よぬよる時  
 名月の麻紐の体ある細路の  
 月こよひのよひをくはぬ  
 我意の意のよ時よるの月  
 名月の三層のよる時  
 可笑可笑

名月の麻紐の体ある細路の  
 月こよひのよひをくはぬ  
 我意の意のよ時よるの月  
 名月の三層のよる時  
 可笑可笑

前和

三



地よりおのり名おのりなるを念は 為文  
酒より人々猶師と見えぬおのりん 匠元  
更しく鞠道すごとくおのり 言水

ぬれ葉の

竹笠よおのり又坂おのりあもいよ 茂木  
名おのり厚れ好よりのぬれ葉らん 彩雲

廣はるおのり威いひのぬれ葉 未達  
ぬれ葉おのり(ま)ぬれ葉 抱電  
ぬれ葉 聖い

ぬれ葉おのり葉おのり二日おのり 乙引  
ぬれ葉おのりよ拂おのりおのり 不甲  
ぬれ葉おのり葉おのり 如引



いし梅の葉のへびの葉のさ 言水  
比敷きくくくくくくくくくくく 句

旅

旅のくくくくくくくくくくく 和及  
ありれくくくくくくくくくくく 風山  
くくくくくくくくくくくくくくく 空録

旅のくくくくくくくくくくく 松逕

~~旅の園~~旅と杖の野里の 如竹

~~打~~くくくくくくくくくくく 一矢 お外

ねくくくくくくくくくくく 文律

鶴よ梅の葉のへびの葉のさ 句

帆のよ風待葉のさ 句 女草



藤ふあ〜 妹婿と〜の徳小 清きよ

あ〜

お〜と〜と〜の徳小 松尾

秋田

海乃背よ結衣と〜の秋田小 扇あふ

お回よ雛と〜の秋田小 意家いけ

林小

全林はあ露白兒の〜の 蟻想

八子丸

お〜と〜と〜の秋田小 保たも

茵

松茸は白兒起〜と〜の秋田小 意家いけ



まろひよ 狭りて 杖の 如く

草らふ 夕白き 乃を 鏡水

草花も 流れて 白く 白鏡

木槿

多此日の 木槿よ ぬる 可心

とぬ下し 娘長 びつ 女雲

清くく 乃月と ぬる 為玉

梅の 児

木食よ 乃月と ぬる 明水

掃

掃うそ 翠結り ぬる 流水

枝掃の 乃月と ぬる 正元



菊

菊は喜ぶよき世の秋の菊は 文俤

偽独菊の川野流れぬの如 泉流

菊の園依りよ露を兒んく如 文俤

宿り兒の菊一舞のんく如 桃水

僧の菊よりの枝おらん雲の菊 雲白

梅

あけあゝと鳥をまゝぬ梅水 有韻冬夕 雲鑑

女郎兒咲らん梅くゆり 玉表

鐘

鐘築よ友の兒栗生れ時丁卯 守文

晚秋



解さぬの我氣ありし秋のくれ

如琴

秋因てらぬぬ釣籠れきやうく

空源

童位瑞若よきく秋のくま

か引合  
桂子

及のるの縁鶴さく秋れ夕水

写心  
世雪

寝もやうぬ子とさ門や秋の言

日  
遠風

城三里秋やとあきさの境

日  
水琴

晴もく晴くくれぬあさ夕水

よ  
菊玉

淋くこの涼見く秋のま

よ引  
去後

晴同く腸の秋れ夕水の

日  
温知

婦あくこやとめれ秋のゆめ水

清吉

秋よ夕白く定ぬれ草履水

知照角波  
人忠

掃立て踏むれ鶴さり秋の涙

清中  
水友



推しあはれをやつらぬ秋の暮

如隠航  
思隠航

風は北國吹つらぬなり秋の里

言水

雜秋

枯さけのこゑに秋の夜ふ

伊友  
宗務

秋は東やかくし秋の夜ふ

乙列

出でて散の一夜の秋の夜ふ

伊藤  
如友

秋は東にうつらうつらと

乙列  
并雀

秋は西にうつらうつらと

乙列  
一書

秋は南にうつらうつらと

情心







物名

人言や本葉の海に去れ月 白鷗  
 神を月と釣籠り死し女は 如吹  
 神の海をひやくと危あそび 忠致  
 去れ月を来れ海見よの世りたり 乙原 列  
 比とくくいの野を満し去れ月 言水





海元

思ふ元枯木見ふの楮の如く 志願

海元一重如元くくく如 扇計

海元本此の夏見くくく如 可笑

時女

二人の中へ海元くくく如 時女

海元くくく如 筆如元 時女 寸高

海元くくく如 又見くくく如 松此 雲如 去

海元一音塊鳩いくく如 夕 時女 親水

己限や小僧清めくく如 横志くく如 森林

帆の依くく如 志願 海元 森林

海元くく如 志願 海元 志願







善哉よ哀なるよ 哀なる家

善哉の松原  
松原

池とて鯉は命のなる家 仲志

己の井のあまの浅い物 易次

子と抱て母は井の 哀なる 如心

心多そ鶴鶴は命のなる 彩雲 目次

風

或る野やこうし見よ 雲 目次

如引  
一災

こがしれ葉よびる人の里 文伴

木かきしれ於て見よ 家 如引松原

風よ鏡目とらと 川 母及保善

木枯よ枝は白梅とて 枕 枕

枯野



冬枯や只嬌に此東の情 羽引 素英

僕ゆるぬ枯野よ幼の縁風 羽引 去夏

冬来移く廣く淋し枯野 ち年 尚白

芦枯く凌ぬ心所屋の如 如氷

冬枯く馬士ののころ 羽引 廻雪

枯心の我目ぬけゆく 羽引 松任 野夢

里枯く為死人よ夕 白 片角

控馬よ急佛とむ 言水

枇杷花

枇杷咲く心 可人

霜

霜に菊のあり 可廻



明礼や暖海のさし給れ家 為玉  
 折上せしむるまの後の雲影か 如外 雲白  
 揚屋く火入れれ白く雲影か 如外 鶴巻  
 糸の北或流野家よ女房おー 如外 鶴巻  
 糸の獲鉄も暖海影か十対の流 如外 常征  
 糸消くま女房おーくひ給目か 宗務

或流野北霜入るる流る 曉水  
 夕方のい〜〜 鶴のま 鶴のま 鶴のま 如外 曉水

水島

歩行今流儀〜〜 鶴のま 可笑  
 明日の糸の糸よ流るる流る 如外 良也  
 以て〜〜 鶴のまのま〜〜 鶴のま 如外 忠致



志る也衣草汁濁くこころも  
鴨母引 泣水  
糸巻く髪と縁心コヒル 鴨母引 一葉コヒル  
流の味縁ふらうく鴨母引 解 心流

穂 付草電

富士山にて懸た果拂去母 友益  
大楠の丸と孤婦の縁去母 友益  
常征

かきゆさの妹の丸寝た出縁去母 流氷  
草電よ音の集所去母 の縁去母 糸 日

細代

藪のつらうら丸縁去母 中細代白考  
細代を築ぬく髪去母 の縁去母 一葉コヒル

上系丸



己事見よ扱邊真能れ何屋亦 為玉

さへん死れを灯籠の筆屋に 空條

己事見よのくもくもや 是瓶 一翠

離里己事見惜死句教亦 三思

神樂 付以火燒

為らるりーの神女之 御子 毛列繼 荆江

御火燒よ鶴れ御さく板亦 寸流

音

音を聴て目よんぬ亦の指亦 弱角

音れ亦や伏せんれ亦ふさの 一矢 小板

音の音や何さましくを 耀の大 菊玉 の

半の音あへんれつるゆを 音亦 白 名振



残る家此者小探りての物自水 市水  
 比要の者河舟の出来ぬ果水 清昌  
 土の雪北太よせん心の重なる物 中志  
 於幾人よしく雪北小橋の如 体見 民也  
 雪北東よしく心の重なる物 コトイ 林竹  
 雪北の心よしく雪北の車水 之流

雪曲て柳の枝れ為う如 山竹  
 雪切く只んて 越の雪 月下  
 あく雪や氷よ解く心のけり 可意  
 心の雪乃解くあつたの 比敷の児 空原  
 雪くづくあけ解る心の雪あけ 如水  
 雪片消く心の雪あけ 如 母な娘家 魚江



柳亭とや梅の枝よ歩むる雪の傍に 無刺

雪れ心敷穴態惜れ梅のそよ 露色

雪よりくはれ火焼うぬ 梅うぬ 白雪 不似子

梅畑とて雪のふりしるる朝水 白 心水

雪れ雪鳥よとつらとつらめ水 心流

雪よ我徳ある雪れ水 心流

月よ娘雪よまらひ ユカタ 倍夜水 心流

鐘撞くころの心 白 朝露や雪車 白 の音 心流

雪れ雪と井をどと枝お水 母な 事なき 心流

雪りころよ鳩鳴雪れ夕の朝 心流

雪友 雲

水乃よの拍子あ 心流 雪友 心流



ゆきくして園をよみよみ

去并 氷流

羽場雛子

後雛子と人かこゝれ

母は野田 保志

川原渡

ゆきつげよまきりりり

は白 志

氷

氷のぬと楯氷柱おん

志氷 氷

おん氷のりりりり

志 氷

半は氷のりりりり

小氷 一

氷の道はりりりり

志 正度

たよよと細代はきり

母は水 氷

義持く氷のりりりり

志 友益



名梅

室の暖やのり絲れ葉の過るをさうり

氷記

氷記と寝ようりの子らぬは 勢心 一露

氷記の鄂より先れみやとふか友

名菊

名菊は雪よのまよりのまが 心 松白

絆扣

絆扣のしりやれまけ基の如 心 伝流

志のくちや火糖の園一絆扣 氷流

東車は言同とやしらし 心 空探

葉巻



富士小屋の隣に果つる茶店 女茶  
妻二人のぬせうきく茶店 札一

鮓

鮓焼て生まじと書あのか  
鮓の旨飯よ越あん竹の枝 丹子 魚白  
暖湯の樽初め飯汁さうり 丹子 雲原

燗拂

燗やまぬ枕は雪の音もくく 丹子  
燗に兒れ白の半とあつて 丹子 言味

紙衣

衣拵の紙子のころも 丹子 嘯雲

年忌



柳之ハカ 思暗ハカ

多分

柳之ハカ

鳥水

思暗ハカ

雜記

保去ハカ

松白ハカ

清智

空條

空條

雜記



河豚よ身と誓てしつらふは 貞名  
大馬と縁れ起しつらふは 朋水  
物よけ肩物ありしつらふは 如琴  
のらもくも佛に足たりしつらふは 為文  
窮にれ結と誓てしつらふは 剛殿  
封付れ文箱救ふつらふは 見之

よ及れ富士<sup>平カウ</sup>畫業を言れんは 彩雲  
大及れ風よおくしつらふは 柳之  
こくありて<sup>カチ</sup>業<sup>カチ</sup>業<sup>カチ</sup>を言れ 松徳  
よ及れ言をのんは 厚名  
大及れ松よ火と焼ぬりぬ 友林<sup>自覺</sup>  
及人<sup>まの</sup>や獨つふや<sup>まの</sup>このふれ 菊玉



傾城れ母いりきりんどの言ふ 心鏡  
 千桂よ婆の控ぬ師乞の 未足  
 舟よ鏡とやらん 大坂白 清風  
 多の妻候れ事とむとの子に鏡の 言水  
 ちの束と孫ぬるまゐのま雀 伝唐

京寺町通二条上町井筒屋

筒井庄兵衛板



